

当院における遺伝相談 外来の取り組み

相良病院遺伝相談外来
矢元美智子 馬場信一

遺伝相談外来の必要性

当院における乳がん手術件数は年間約500件、検診施設のさがらクリニック21では、乳腺科、婦人科のべ約27000件の利用がある。また、乳がん診療に長い歴史をもち、県下の年間症例数の約8割を占めている。

一方、欧米では以前よりBRCA遺伝子の変異がトピックスになっており、家族性腫瘍の、若年発症・多発性・多臓器性という特徴に対して取り組みがされている。当院でも家族性腫瘍への取り組みを含めた早期発見・早期治療を地域住民に提供していくことを目的として、**2008年12月**家族性乳がん・卵巣がんの遺伝相談外来を開設した。

外来開設への道

- カウンセリング担当者のセミナーへの参加、他施設への研修
- 相談室、カルテ保管庫、専用電話などの設営。
- 倫理委員会での承認
- パンフレットの作成
- 他スタッフへの研修会

スタッフに対しての研修



遺伝相談外来開設にあたり、スタッフに対してロールプレーを含めた研修会を行いました。

医療スタッフだけでなく、事務部門や栄養科など多くのスタッフの参加がありました。



記者会見の様子

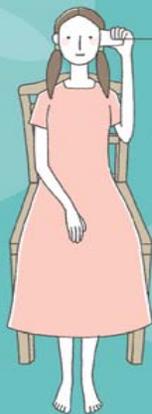


遺伝相談外来開設にあたり、記者会見が開かれ、テレビのニュースで報道されました。

新聞やテレビから情報を得て、遺伝相談をされたケース多数がありました。

「遺伝について知る」。

情報はあなたと家族の力になります。



当院では、「家族性乳がん・卵巣がん」について、
専門スタッフによる遺伝カウンセリングを行なっています。
詳しくはパンフレットをお読みください。



相良病院

相良病院遺伝相談外来のパンフレット

Check!

以下のいずれかにあてはまる方は
「家族性乳がん・卵巣がん」の
可能性があります。

- 40歳未満で乳がんと診断された。
- 両側の乳房が乳がんと診断された。(特に早期の乳がんを50歳未満で診断された場合)
- 50歳未満で乳がんと診断され、自分の第3近親親(叔父・叔母、曾孫、大おじ、大おば、いとこ)以内の近しい血縁者に同じく50歳未満で乳がんや診断された人がいる。
- 年齢は問わず乳がんあるいは卵巣がんが診断され、自分の第3近親親(叔父・叔母、曾孫、大おじ、大おば、いとこ)以内の近しい血縁者に乳がんや診断された人が2人以上いる。
- がんを患っていないが、第2近親親(叔父・叔母、おじ、おば、孫、甥)以内の近しい血縁者に上記のいずれかの条件に合う人がいる。

これらの特徴にあてはまる方がすべて「家族性乳がん・卵巣がん」であるというわけではありません。その可能性を正しく診断するには遺伝専門医の診察が必要です。



遺伝相談外来のご案内

■外来相談日(完全予約制)

毎週金曜日 9:00~12:00

■遺伝カウンセリング料

初回 1万円(税込)

2回目以降 5千円(税込)

*遺伝カウンセリングは1時間程度を予定しており、自費診療となります。
遺伝子検査を受けられる場合は別途費用がかかります。

■ご予約・お問い合わせ

遺伝相談外来 担当看護師 矢元

受付時間 平日10:00~16:00

TEL 070-5402-1800

 財団法人遺伝学会 相良病院
〒802-0833 鹿児島市桜葉町3-31
TEL 099-224-1800(代)

家族性乳がん・卵巣がんについて詳しくお知りになりたい方は、
以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.familial-brca.jp/index.html>

家族性乳がん 卵巣がん

検索

かんたん検索!

「遺伝について知る」
情報はあなたと家族の力になれます。



当院では、「家族性乳がん・卵巣がん」について、
専門スタッフによる遺伝カウンセリングを行なっています。

遺伝カウンセリングの様子



遺伝外来ではクライアント の自己決定を支援

- 家族性乳がん・卵巣がん、遺伝形式などについて情報提供
- 家族歴の聴取と、乳がん・卵巣がんの発症リスクの評価
- 個々のリスクに応じて、1次予防・2次予防の方法について話し合い
- 血縁者のリスクについての話し合い
- 遺伝子検査を希望される方には、遺伝子検査の情報提供、自己決定の支援、受けた方に対する結果開示と今後の方針についての話し合い
- 主治医やその他専門職との連携など

遺伝カウンセリングでの基本的説明事項

- ・家族性腫瘍について
- ・家族性乳がん卵巣がんの発症年齢・発症率
- ・メンデルの法則・常染色体優性遺伝形式・浸透率
- ・遺伝子変異に関連するがん発症リスク
- ・1次予防、2次予防(早期発見・治療、検診の有効性)
- ・BRCA1/2遺伝子検査という選択肢の説明
- ・遺伝子検査の利点(早期発見、不確かさの解消など)
- ・遺伝子検査の限界(不完全浸透)
- ・遺伝子検査のリスク(精神的影響)
- ・診断時期・診断方法の選択肢

遺伝カウンセリングでの相談事項の例

- 家族歴・家族構成・保因可能者の認識
- 保因可能者の抽出、発症・担癌リスク
- 保因可能者へのアプローチと告知
- 診断時期・診断方法の選択
- 1次・2次予防方法の選択
- 定期検診について
- 就学・就職など社会生活について
- 生命保険加入
- 産児希望など家庭内問題
- 結婚・離婚問題
- 術後の体調・生活上の問題と工夫

遺伝カウンセリングの流れ

本人から予約が入る

担当看護師より事前確認：受診目的、相談内容、家系情報

当日

プレカウンセリング (Ns) : 家系情報の整理と家系図作成、相談内容の確認



カウンセリング (Dr, Ns) : 相談内容に合わせて以下の説明



カウンセリングのフォロー (Ns) : 疑問点を整理、不安への対応、今後の対応

後日

遺伝子検査をした場合には、検査結果の説明、遺伝カウンセリング

がん遺伝カウンセリングを行っている施設

福島県立医科大学病院
星総合病院(福島)

国立病院機構霞ヶ浦医療センター
聖路加国際病院

国立がんセンター
慶応義塾大学病院

癌研究会有明病院
東京女子医大病院

埼玉県立がんセンター
栃木県立がんセンター

信州大学病院

兵庫医科大学病院
京都大学病院
大阪中央病院

岡山大学病院
広島大学病院
岩国医療センター

四国がんセンター

野口病院(大分)
相良病院

問題点と今後の課題

- ・家族性乳がん・卵巣がんに必要な家族歴の聴取、問診のとり方についてスタッフへの教育、データ収集と整理。
- ・スタッフが遺伝について知り、連携していけるための遺伝教育の普及
- ・主治医、看護師、他部門と連携し、家族性のリスクがある人が遺伝について知ることのできる窓口を見つけ、広げていくこと。
- ・病院だけでなく、検診施設利用者や地域を含めた啓発活動